

共同行動参加システムの構築について

1 経緯

誰もがいつでも CO2 削減をはじめとする環境負荷低減活動に参加できるようなインターネットを利用した共同行動の場をつくるため、平成 21 年度に「共同行動参加システム（仮称）基本計画」（以下、「基本計画」）を策定した。

実施設計及び構築にあたり、基本計画の実効性を確認するため、平成 22 年 7 月から 10 月に検証を行った。

2 基本計画の概要

平成 21 年 8 月に 62 市区町村職員 9 名による検討委員会を設置して検討を行い、平成 22 年 3 月に基本計画がとりまとめられた。

(1) 基本方針

- ①多くの人が気軽に参加できる Web サイト
- ②少しずつ環境について、見聞が広まる・自分が成長できる Web サイト
- ③個人の活動から仲間同士の活動へ、広がりをサポートする Web サイト

(2) サイト名

「ECO ネット東京 62」

(3) 基本構造（コンテンツ内容）

- ①エコニュース：ユーザーの身近なエコ行動を発信する場と、その情報を閲覧する場
62 市区町村のイベント情報等
- ②エコまなび：小学生向けの楽しみながら勉強できる環境教育ツール
- ③エコクイズ：環境クイズの提供
- ④エコライフ：自らの行動の変化による CO2 削減量を試算できるツール
- ⑤エコくらべ：自宅の光熱水費や消費量を記録し、CO2 排出量を把握できる場
参加者が増えた段階で、参加者の平均値と比較できる場を提供

(4) その他

コンテンツの提供・運用方法やシステムの基本設計、PR・広報戦略の概要が、基本計画に示された。

3 検証結果

検証では、まず、基本計画に示されたコンテンツの有効性等について、それぞれ評価を行った。さらに、システム設計や運営方法など、基本計画全般の実効性についても検証を実施した。その結果、様々な改善点の指摘があった。

(1) コンテンツについて

〈各コンテンツの評価〉

コンテンツ	主な評価、指摘事項
エコニュース	<ul style="list-style-type: none">東京 62 市区町村で構築するサイトとして、最も独自性を発揮できるコンテンツ。より特性を活かせるサービス内容に強化すべき。
エコまなび	<ul style="list-style-type: none">他の先行サイトと重複している。他の様々な教育教材が溢れている中で、学校教材として受け入れられることは困難。
エコクイズ	<ul style="list-style-type: none">他の先行サイトと重複している。問題、ジャンル、解説の検討が不十分。利用者にとって回答のインセンティブが少ない。
エコライフ エコくらべ	<ul style="list-style-type: none">他の先行サイトと重複している。登録した上でデータ入力が必要となり、利用に手間がかかるため、他の先行サイトより余程魅力がない限り、利用が見込みにくい。エコくらべは、「他の参加者と比べられる」という長所を発揮できる段階まで参加者数が増加することは相当困難。

〈集客力予測〉

類似事例（環境省エコ帳等）及び現ホームページのアクセス数、全国人口と都内人口との比較、都内小学校児童数などをもとに、集客力予測を行った。

その結果は、年間 200～700,000 アクセスと、非常に幅の広い推計値となった。現時点では、これ以上の正確な予測は困難であるが、コンテンツごとの比較では、「エコニュース」が年間 100～500,000 アクセスと、最も高い推計数値が示された。

〈コンテンツ設置方法〉

以上の評価、集客力予測を踏まえ、「各コンテンツの評価にばらつきがあることから、まず優先度の高いコンテンツを構築・運用し、集客状況や環境に対する社会関心の変化、ユーザーからの意見を踏まえながら、緩やかにコンテンツを追加することも考えられる」との改善案が示された。

(2) その他

システムの基本設計、運営方法、広報手段などについても、費用対効果等の観点から問題点が指摘された。

〈主な指摘事項〉

- サーバ機器の選定やサイト稼働時間等が過剰であり、不要な費用が発生するリスクがある。
- サイトの運営・推進体制や、サイト活性化のための取組みの計画が不十分。
- 費用対効果を踏まえた参加促進・広報の具体的な計画が不十分。

4 今後の方向性について

検証結果を踏まえて基本計画を改善し、下記のとおり進める。

(1) コンテンツ

62 市区町村としての特性を活かせるコンテンツを優先して導入し、運用を開始する。

① 導入するコンテンツ内容

「エコニュース」を改善して導入するとともに、「エコまなび」の要素を一部取り入れる。

具体的には、基本計画にある 62 市区町村の環境イベント情報、利用者によるニュースの投稿等に加え、62 市区町村の特徴を示すような知識・情報を提供するレポート記事や、「学び」の要素のあるレポート記事を掲載する。

レポート記事の例) ・地域に根付くエコ慣習、地域の暮らしにおける 3 R 活動
・「ごみの分別をしないとどうなるの？」 など

② 今後について

今回導入しないコンテンツ（「エコクイズ」「エコライフ」「エコくらべ」）については、本サイトの利用状況や利用者の意見、先行サイトの動向や本サイトとの関連性等を慎重に見極めながら今後の対応を検討する。

また、サイト全体について、コンテンツ内容の改善等、適宜利用者ニーズを踏まえて充実を図っていく。

(2) システム

コスト面を踏まえ、現ホームページを活かす形で上記コンテンツを導入し、合わせて、現ホームページを全面的にリニューアルする。

なお、サイト名は、基本計画に示された「ECO ネット東京 62」を使用する。

(3) その他

広報手段、運営方法等について、検証結果を踏まえ、最大限効率的かつ効果的に進める。